

## 第 6 回 軽井沢 2 2 世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 平成 2 9 年 3 月 2 4 日 (金) 9 : 3 0 ~ 1 1 : 3 0

【場 所】 軽井沢発地市庭 イベントスペース

【出席者】 名誉顧問：中村良夫先生（東京工業大学名誉教授）

基本会議委員：朝比奈一郎委員、石坂洋二委員、市村初仁委員、  
鈴木幹一委員、須永久委員、西山紀子委員、  
横島庄治委員、志立正嗣委員、島崎アイコ委員、  
貫名礼恵委員、青木健太郎委員、遠藤寛士委員、  
荻原確也委員、児玉大輔委員

### 内 容

#### 1. 開 会

#### 2. 会長あいさつ

- ・ 基本会議も 6 回の議論を重ねてきた中で、軽井沢町は僅かながらも確実に変化を遂げてきたと私は確信することができた。
- ・ 高崎郊外の鏑川の横を切り開いて散歩道を作るボランティア活動をしている中で、ある言葉を耳にした。「歩けば道になる、歩かなければ草になる。」この言葉は、その道を利用して歩いてくれる人が一人でも多くいれば、自然と道が出来るということである。まちづくり会議の琴線に触れるような上手な表現である。何をしているのか分からない、効果がないのではなく、苦勞して頑張れば、いつの間にかその後は道になっていく。そういう事が、まちづくり社会活動の本質だと思う。

- ・ これまでに風土フォーラム事務局に寄せられた意見として、今日 53 件の提案を明らかにし、その中から町に提言する段階まで漕ぎ付けた。これは大変な収穫である。住民とは対極にいた行政の組織が、確実に変化したということも証明できる。
- ・ 4月1日から町政組織が大幅に改正される。ここに至る変化は、今の町民との意識改革の交流、それを活かす方向に体制を変えていこうと、町長をはじめ、町の意気込みが形に現れたものだと解釈できる。町民も行政も変わりつつある。これらの変化に対して、全部が基本会議、風土フォーラムの収穫と思いが上がっているわけではないが、その一助になったとすれば、皆さんの努力に感謝する他ないという思いである。本日は、一年の締め括りの討議とし、来年度に向けての決意表明を頂く時間もあるので、よろしくご審議を頂きたい。

### 3. 議 事

#### (1) 基本会議からの提言について

- これまでに事務局へ寄せられた意見等の中から、町にとり重要な課題と考える案件について、各委員に選択してもらった。基本会議から町への政策的提言として、一つ決定したい。

#### 【意見交換】(発言順)

##### A委員

発地でドジョウを飼うという意見だが、これは一つの観点である。発地一帯の地域をどう考えていくのかを検討することにより、徐々に昔ながらの田園風景が蘇ると思うので、この提案を検討してほしい。

##### B委員

発地で実施しているホテル観賞会などのイベントも、その土地を楽しみ自然と触れ合うという観光の面、町民のレクリエーションの面でも、色々と可能性があるので、休耕田の活用を考えることはよいと思う。

## C委員

私はゾーニングによる環境整備を進めたいという意見を出した。寄せられた意見の根本を考え分類をすると、自然環境、交通、人材・地域交流、文化・芸術、住民意識、風土フォーラム運営になる。ここに寄せられた具体例を取り上げるのも一つの手だが、根本にある考えを深掘したほうがよいと思う。

## D委員

寄せられた意見の中から一つを選択する時、50年100年を見据えた軽井沢の方向性とマッチした形のものを選ぶことになると思う。サンセバスチアンの美食の町、ウィーンの音楽の町のように大きな方向性を踏まえた時、どういうプロジェクトを選ぶべきかという観点に立ち考えると、食と農業を絡めた事などはよいと思う。私は、軽井沢の町を考えるうえで、自転車道がよいと思う。

## 会長

50年100年掛かりで解決するような大テーマを掲げるのも一つの方法である。また、最初の提案なので、ファーストケースとして実施してみて、次にサイズアップをする方法もある。選択の手法として、どちらのサイドに立ち選ぶかが一つの規準になる中で、その立脚点についてのご意見があれば伺う。

## E委員

私は湯川沿いの遊歩道整備がよいと思う。環境保全活動を続けてきて、湯川は軽井沢の自然の象徴的存在であり、人が歩くことにより軽井沢の自然の良さに気付き、生物多様性をより良い状態で後世に引き継ぎたいということから、町としての大きなテーマとして掲げ、重要性を展開してほしいという思いで選んだ。

## 会長

選択の時に、町全体に関わるテーマか、地域限定にするかという選択もある。

## B委員

対象者について、既存のコミュニティを超えた何かが起こるような

プロジェクトを作れると有意義だと思う。

会長

ランドデザイン、風土フォーラム、基本会議の三段階に展開する、新しい風土自治の手法の具体的成果の第一号として、基本会議から行政に対して、町民の意見を集約しテーマを一つに絞り提言するという役割に、我々一年間の成果を込めたい。

F委員

50年100年というまちづくりに対して動くような提案なのかが重要なポイントだと思う。また、風土自治を軽井沢に根付かせるための提案として相応しく、住民参加で作りに上げていくことが出来ることも重要なポイント。私は、交通と町民を巻き込める仕組みという観点で、交通政策と人材登録を選択した。交通政策は、従来の縦割りでは解決できなかった交通全体の問題を、ソフトウェアテクノロジーを使い、民間の専門的なものも踏まえ仕掛けることが出来るのであれば、50年100年後に対して一つの大きな変換点にすることが出来るのではないかと思う。また、人材登録は風土自治を根付かせるためのコミュニケーションとし、横糸を通すための概念の一つとして選んだ。

G委員

私はビジネスライセンスを選んだが、交通や農業観光なども4月以降にプロジェクトとして取り上げるべく重要なテーマである。1,000m林道に自転車道を設置するという意見に対し、関係部署からは、実現の可能性が低いとあるが、別の場所なら可能性があるかも知れないなど前向きに捉えることが大事。軽井沢は交通大臣サミットがあったので、ランドデザインにおいても交通はキーになると思う。

会長

提案は、優先順位と町民への理解を求めため、一つ選考し基本会議から提言することに意味があるが、他の意見も継続的に審議する。優先順位として、町民からの提案のファーストケースとして実施するに相応しいものを選択し、それ以外の意見も議論していくことは当然である。交通は、軽井沢の重要な政策テーマであることに変わらない。

## H委員

ビジネスライセンスは、町でも取り組まなければならない問題として、関係各課と協議している中で、規制という捉え方ではなく、事業者が町のルールを守ることによりメリットがあるという方向性で検討している。しかしそれだけでは納得できない部分もあるので、基本会議からの意見も得られれば、現実的に進められるのではないかと感じている。発地の休耕田でのドジョウ飼育も、まずは手を付けることが今後の第一歩に有効だと思う。

## 会長

町民からの提案を採択しても、行政側と温度差がありこちらを向いていなければ捨て石になってしまう。それは勿体ないので、実現可能性の高いものを選ぶことは新しい事業形態を实践するうえでは、必要な条件として考えた方がよい。

## F委員

ビジネスライセンスは、関係部署において既に検討されているとあるが、私達は内容が分からないままこれを提言すると、町の進めていることに対して、風土フォーラムのお墨付きが出ると町民からは見えるので私は賛同しかねる。これを提案している委員数は6名であり、このままではビジネスライセンスに決定してしまうのではないか。

## 会長

町側と町民から提案が出たのは同じような時期だが、全くすり合せのない状態での意見である。町が進めているから提案したのではなく、オリジナルな提案であった。

## 事務局

昨年の夏前から役場の関係部署により事業者認定制度（仮称）の検討を進めている。最新の状況は、様々な事業実態の洗い出しを行い、どの様にしたら認定がうまくいくのかを検討している状況である。

## F委員

何を実現したいからビジネスライセンスを進めているのかが抜けている。そこが不明確だと、風土フォーラムから、ビジネスライセ

ンスの手法を提言してもイメージがわからない。

会長

ビジネスライセンスは、アメリカにある法律に準じるような制度で、事業者認定を受けないと仕事が出来ない制度である。この提案は、景観デザインで自然保護や騒音などを妨げる業務上の障害について、協力的に実現させ努力した事業者に対して、優良事業者として表彰していくという意味合いのビジネスライセンスだと理解できる。良い事業者を表彰することにより、悪貨は良貨を駆逐する逆の考え方である。

D委員

ビジネスライセンスをどういう価値観で取り入れるのかが大事。色々なやり方がある中で、50年100年後の軽井沢を見据え、軽井沢の大きな雰囲気作りのために役に立つことをしている事業者を優遇するなど、コンセプトualなところが大事になると思う。

C委員

提案者が訴えたいキーワードを考えることが大事。景観を守ることが重視したいからビジネスライセンスを取り入れたいと訴えている。休耕田の利用をしたいから、ドジョウの話提案した。キーワードを基に選べばよいと思う。

G委員

ビジネスライセンスは範囲が広くて、どのように軽井沢らしさを作るかはこれからの議論になるが是非進めていきたい。会議での提案を最終的に決めるのは、個人的には会長に一任したい。その他も大事な意見なので、今後も議論していきたい。

B委員

選択の方法について、短い時間で議論を深めるのは難しいので最終的には会長にお任せしたいが、その前に風土フォーラムのメンバー内でどこを目指すのかの意思統一をしておきたい。

会長

町民は成果物が見たいという心境である。一つの成果としての発表は、是非本日決定したい。決め方については、最初の提言として注目

されているので、一つは実現可能であることが大事。二つ目は一般的テーマにすること。三つ目は行政側の姿勢が見えているものを最初のチャレンジにした方がよい。それらを総合して、会議の雰囲気の中で決定することがよい。

(意見が纏まらないので、一端預かりとなる。)

## (2) プロジェクトチームについて (各プロジェクトチームの近況報告)

### ○軽井沢駅北口ステーションフロント構想プロジェクトチームについて

- ・(旧) 軽井沢駅舎記念館を、しなの鉄道株式会社へ貸し出す契約までは至っていないが、3月議会において、(旧) 軽井沢駅舎記念館に関する廃止の条例案が可決されたので、3月末で閉館となり、その後正式に貸し出す流れになる。

### ○チームみらいえプロジェクトチームについて

- ・第1回会議を3月7日に開催し、教育委員会の担当者にも参加をしてもらった。内容は、子供の安全管理やスケジュールについて確認をした。イベントの内容は思案中だが、今の子供達は、土日習い事があるため、夏休みに開催する予定である。

## (3) 今年度を振り返って

### ○風土フォーラム名誉顧問 中村 良夫先生

- ・自治には二つの側面があり、内部自治と外部自治がある。ビジネスライセンスは、軽井沢の価値観ライフスタイルに合った企業を育てるということである。軽井沢に外部からくる企業に対して、こちらの価値観をはっきり伝えるという意味がある。これは、軽井沢の風土自治の精神論を、外部へ発信する意味合いが強い。その為に、優良な企業は褒賞することでよい方向へ導ける。外部に発信するやり方は、グランドデザインの軽井沢モダン

という考え方である。軽井沢の中に作られる建築物や商業的なスタイルは、軽井沢らしい雰囲気を出したものを開発するべきであるという考え方である。それと重なる部分もあり大変結構である。外部発信については、軽井沢の精神を体得したようなあらゆる種類の文化活動に対して進めていき、軽井沢賞を作ったらよいのではないか。軽井沢は昔から優れた文学者が沢山いるので、軽井沢文学賞も考えられる。そういう事を考え、軽井沢の精神を外へ出すことは良いことだと思う。

- 世界の大都市ではなく、小さな村が大きな情報を発信している例がある。イタリアのピエモンテのスローフード運動は、今や世界的な言葉になっている。地元の素材で料理したものを広めようという発信が共感を得ている。それと同じように、軽井沢は100年以上の歴史を持ったスピリットがあるので、それを形にすれば、外の人への励みになるので、一つの可能性として考えていただけたらと思う。
- 昨年11月、基礎自治体のサステナビリティとローカル・ガバナンスに関する国際シンポジウムを開催した。ヨーロッパのわざわざ小さな町を選び、町長に来てもらった。一つは、ノルマンディー州リヨンス・ラ・フォレで人口800人。もう一つは、ドイツのコルンラーデで人口1,000人。この人口800人のリヨンス・ラ・フォレの町には、色々な種類のクラブ活動がある。フランスの首長もドイツの首長も、地方の小さな自治の基本は、クラブ組織にあると言っていた。そういう組織の中から、リーダーが生まれるから大事にするのが自治の基本である。提言にあがっていた人材バンクの話も、新団体をどう作るのかが大事で、1年で成果が出るものではなく、永久に取り組まなければいけない問題である。プロジェクトはただ実行するだけではなく、同時に町民の自治意識を育てるモチベーションと一緒にいるのが望ましい。フォーラムはみんなが議論するという意味と場所という意味がある。本来ヨーロッパで使用しているフォーラムは、政治的な中心に市場があるのが普通で、それを夢見ていたら、発地市庭で実現し大変嬉しく思う。そして今日は委員の皆さんだけでなく一般の皆さんにも来ていただいて心温まる。演劇的に見るような形で構成できればもっと良い。季節が暖かくなったら外で開催してもよい。理想的なフォーラ



ムとは、そういうものを描いている。出発点としては大成功なので、これを軽井沢の中心にして、発展させていただければこんなに嬉しいことはない。

- ・コンパクトシティを選択するかしないかで、その町の運命は決まると思う。町としての密度の濃さをコンパクトに纏めないと生き残れない。コンパクトシティと同時に、並行して考えなくてはいけないことは、コンパクトに纏めた外側をどうするかという問題。今後 100 年の軽井沢について委員会で議論した時も、大きな課題になったのは発地の問題である。発地が楽観視されると、今後の軽井沢の大きな損害になる。ランドデザインにもあるが、新しいタイプの里山文化を軽井沢から発信してもらいたい。生物多様性、新しいタイプの観光を、発地に作っていくことを忘れないでいただきたい。発地市庭がここに出来たことは幸運だったと思うので、皆さんで議論してもらえれば喜ばしい。

#### (4) 来年度の展望と課題

- 自由討論（基本会議からの提言についての続き）

##### 【意見交換】

##### D 委員

寄せられた意見について、会長に一任するにしても全員の意見を確認した方がよい。

##### I 委員

自然を守ることは、長期振興計画などでアンケートを取ると、いつも上位にくる内容だと思う。ビジネスライセンスという名前は堅い気がするが、軽井沢の価値観を育て示すことは 50 年 100 年後の軽井沢を守るために必要だと思う。

##### J 委員

軽井沢の危機感は、住んでいる側としても感じている。軽井沢の今の状況を打開していく策を考えるのであれば、ビジネスライセンスは

色々な部分に繋がると思う。

#### B委員

私は、多様な人が関係するテーマを基準に選んだ。道路と人材の有効活用という観点で提案できると有意義だと思う。今まで出会わなかった人たちが会えるコミュニティがあるとよいと思う。

#### D委員

交通大臣会合のレガシィと軽井沢は人を招く場所ということから交通、特に自転車がよいと思う。

#### K委員

50年100年先を見据えて考えた時に、交通と農業観光を推進したい。継続可能な地域資源を活用し、ビジネスに繋がるような提案がよい。

#### L委員

健康で考えると色々なコミュニティが立ち上がるのでどれをとっても良い。50年100年を描いて今キックオフするのがこの基本会議だが、提言とプロジェクトチームの関係性が見えない。風土フォーラムの委員を引き受けた時に、官民がお互いに出来ないことを助け合って100年後に向かい発信できればよいと考えていた。プロジェクトチームでしっかりと検討したものを提言する形の方がよいと思う。

#### M委員

私は町の環境景観を守る部署で毎日指導をしている立場なので、ビジネスライセンスがよいと思う。事業者と意見が相違することもある中で、「否定せず実施させるがルールに従ってもらう」という考えは理にかなっていると思う。

#### 会長

皆さんの心根はよく分かった。プロジェクトチームと提言についての関係について疑問が呈されたが、プロジェクトチームは、実施しなければいけないテーマが出た時にチームを立てる。基本会議は臨機応変に、多様な形で対応してくる必要性を一つの心情としているので、今回は町民からの貴重な提案を形として行政に繋ぐための手法として提言とした。外部自治という外への発信力を持ち、町民への理解度を高

めるためのプロバガンダとして有効なものが欲しいので、我々と町民の理解の落差を埋める努力をする中で、色々な形の要素を兼ね備え、現時点で適当な要素は何かを考え現実的な提案をしてみたいという結果として、時間をかけ議論してきた。軽井沢町の情報発信は、内部の満足度が高い割に外部への情報量が少ない。外に対する意識は、客が来ればよい、分かる人に分かってもらえればよいという時代からもう一歩進めた、良いものを進んで発信していく、本当の意味でのワールドワイドな軽井沢に位置づけ直す。その努力は至難の業だが、今回は情報発信能力の高いものを選びたい。情報を共有化し、手を携えて新しい時代の第一歩として決めさせていただくのが趣旨である。軽井沢賞もビジネスライセンスの頂点としてゆくゆくは進めて花を開ければ頂点に立つ制度の一つとなる。

異論がなければ私から纏めさせてもらおう。ビジネスライセンスという言葉には誤解もあるし、難解でもあるし基本的風土に合わない用語でもあるので、この用語を使用することはどうかと思うので、「良質なまちづくりに協力・努力した個人や企業を顕彰する、一種のビジネスライセンス制度の誘導、展開の一つとして軽井沢賞などの制定を視野に入れていく」と組み替えをさせてもらい、この政策提言にさせていただく。中村先生の意見も踏まえながら、軽井沢賞の中身はこれからになるが、アワードを入れることで、顕彰制度によって情報発信し、そして、よい企業や個人の社会活動を誘発していくという制度について、具体的な提案を行政側で具体化して欲しいと決めさせていただく。この問題をテーマにしたプロジェクトチームについては、行政側に投げても一つの実験なので意味のあることである。また、交通政策、人材バンク、農業観光についても、今後折に触れ具体的テーマとして話し合う場を設けたい。人材バンクについては、教育委員会に同じような制度があり、具体的に動いているが、それを全体的な人材バンク制度に広げるにはどうしたらよいか教育委員会としても一考の余地があると考えているようなので議論していきたい。交通政策は、否応なしの絶対的テーマである。今の軽井沢の交通渋滞をこのままに

してよいはずがない。一方通行からコンジェスチョンチャージまで非常に展開が多い。社会的テーマなので、具体的策があれば、町側にも対応していただきたい。ドジョウの問題は、発地の魅力を健康と結び付けなければいけない。L委員から大きなテーマを頂いていて、意見集約は終わっているので、来期課題として発地風越の展開を考えていきたい。町長も同席しているのでお願いですが、基本会議としてはそういう視点で議論していくので、行政側も捉えていただきたい。一年の成果として、町民 53 件の提案から、優先的に町側に具体的な政策を早急に実施していただくテーマとして、皆さんの同意のもとで決めたことを、今回の会議の答えとして掲げさせて頂いて以上の結果として終わりたい。

#### ○町長からの感想

- ・軽井沢の将来の姿を、具体的に描き共有出来なければいけない。その為には、議論が必要である。イメージが共有できると具体化していくためのプロセスに入り、行政、民間などに分担していける。ただ、民主主義の限界で公共性を考え進めると、最大公約数で個性的なものは生まれにくく無難なものに落ち着くことになる。コンパクトシティは、住居は集合、別荘は分散という形の考え方になる。町を交通で結び利便性を高め、環境によい形で作りこんでいかなければいけない。利便性を高めると聞くと、究極的には大都市になるが異論がある。コンパクトシティは骨のようなもので、そこに肉付けをしていくと、軽井沢が段々と出来てくる。

#### 4. 事務連絡

#### 5. 閉 会